

# まちづくり基本方針検討委員会での検討経緯

論点	第 1 回 (H24.2.13)	第 2 回 (H24.3.16)	第 3 回 (H24.7.2)	第 4 回 (H24.7.31)	第 5 回 (H24.10.22)
まとめ	<p><b>改定の方針</b></p> <p>基本方針の 18 の基本方向ごとの取組を整理 長期ビジョンをまちづくりに関して整理 検討方針の提示 (位置付、想定年次、課題、将来像、取組等) まちづくりを取り巻く状況の変化を提示 (人口減少・少子高齢化、地域の自立、震災、環境・エネルギーの視点で整理)</p>	<p><b>地域別の課題整理</b></p> <p>基本方針の位置づけ、まちづくりの範囲 「日常生活空間づくりとそれに関係する人づくりや仕組みづくり」を対象範囲 地域ビジョンの 4 つの地域区分に対し、都計法、緑条例の区分を活用して定義し、それぞれの取組、現状、課題を整理 データ・資料・地域づくり顕彰事例を整理</p>	<p>地域におけるまちの将来像と取組の方向</p> <p>地域軸とテーマ軸の 2 つの軸を活用し、4 つの地域ごとに懸念されるシナリオ、目指すべき将来像、取組方向を 4 つのテーマ別に整理</p>	<p>改定素案(まちづくり審議会中間報告案)</p> <p>改定素案の審議 ・時代認識と改定の視点 ・地域ごとの懸念・将来像と取組方向 ・県が取り組むべき重点施策と指標 まちづくり事例集(案)、まちづくり指標集(案)</p>	<p>改定パブリックコメント素案</p> <p>改定パブリックコメント素案の審議 ・まちづくり審議会での意見を踏まえた素案について審議(地域区分、将来像、基本コンセプト、指標、各主体の役割、まちづくり資料集など)</p>
編集方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民や市町が活用する視点</li> <li>・明解なメッセージ性とボリュームダウン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の生活イメージの提示</li> <li>・県民や市町向け施策事例の提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点施策(リディングプロジェクト)を提示</li> <li>・まちづくり事例集の提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民生活のイメージを共有できる見せ方を考えるべき。打ち出し方、見せ方を工夫すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まちづくり資料集」は担い手が使いやすいよう、編集を工夫</li> </ul>
位置づけ 対象範囲	<p>&lt;位置づけ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期ビジョンとの関係を明確に</li> <li>・現基本方針からの絞込み</li> </ul> <p>&lt;対象範囲&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市や地域の空間づくりとそれに関わるソフト</li> <li>・長期ビジョンと重なりつつ、都市、地域空間への投資、自立したコミュニティ形成、交流の促進の 3 点</li> </ul>	<p>&lt;対象範囲&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり部局で取り組める範囲</li> <li>・現基本方針からの絞込み</li> <li>・関連計画とのつながりの整理が必要</li> <li>・取組範囲の境界線をはっきり区分できない部分もある</li> </ul>			
地域区分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策相互の関連を見つけて、地域の視点で整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を 4 区分して整理することで OK</li> <li>集落とその周辺 地方都市 郊外ニュータウン 都市中心部</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・改めて見ると、4 つに分けたその相互関係が、いきなり 4 つに分けてしまった感がある</li> </ul>
現状・課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域の良さを評価する視点も必要</li> </ul>			
将来像		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、地域が手じまいする可能性も明示</li> <li>・県域を超える広域の視点も必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4 地域、4 テーマの整理で OK</li> <li>・外国人、子育ての視点も必要</li> <li>・地域の特性を踏まえた将来像を記載</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・懸念される事態に加えて、「各地域独自の資源、個性、魅力」を踏まえるべき</li> </ul>
基本 コンセプト	<p>地域の持続性と自立 県民の幸福 等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域の持続性」「県民の幸福 = 安寧な暮らしの実現」に焦点を当ててもよいのでは</li> <li>・多様な自然・環境、ストック活用、持続可能 等</li> </ul>	<p>美しいまちづくり 成熟社会 等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「美しいまちづくり」(文化の輝き、プライド)</li> <li>・人口減少・低成長時代に合ったコンセプト(成熟、誇り、あこがれ、着実)</li> </ul>	<p>地域による持続可能なまちづくり ノーマライゼーションとイノベーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが当たり前の生活ができる社会構築と新しいことへのチャレンジ支援</li> <li>・県民に役割をわかりやすく提示し、押しつけては行政との協働であることを示す必要</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域が「現在持っている魅力」を輝かせるという視点を表現できないか</li> </ul>
テーマ/取組 各主体の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期と中期の視点</li> <li>・地域類型ごとに、取組について議論すべき</li> <li>・東日本大震災の教訓</li> <li>・兵庫県の住民協働の実績</li> <li>・住民間のつながり</li> <li>・都市と地方の連携、</li> <li>・コンパクトシティの概念</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災減災、エネルギーマネジメント</li> <li>・ストック有効活用</li> <li>・地域間交流</li> <li>・まちの個性</li> </ul> <p>&lt;集落&gt;人と人のつながり &lt;地方&gt;コンパクト化、地域資源活用、公共交通の維持 &lt;NT&gt;NT からまちへ、施策を試すフロンティア &lt;その他&gt;臨海部の津波等の防災対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4 地域、4 テーマの整理で OK</li> <li>・リディングプロジェクトとして打ち出し</li> <li>・頑張る地域を支援する先進的取組</li> </ul> <p>&lt;集落&gt;自立エネルギー、都市ボランティア &lt;地方&gt;空き家、空き地活用 &lt;NT&gt;スマートグリッド、農のある暮らし、空き家、空き地活用 &lt;都市&gt;エネルギー拠点整備 &lt;その他&gt;まちづくりアドバイザー、担い手支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域主体があることが見えない</li> <li>・他分野と連携した取組</li> <li>・中・長期を見据えたまちづくりのビジョンとしては地味</li> <li>・兵庫県ならではの取組を盛り込む</li> <li>・モデル事業の導入による地域間競争</li> <li>・建築や都市自体を低炭素化していくことは大きな課題なので、より具体的に書くべき</li> <li>・防災の持続性を確保するため、他の分野とうまく関連させることが大切</li> <li>・集落、地方都市の再編では、交通や福祉サービスのネットワークをどう組み直すかが重要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通アクセス権の打ち出しが必要</li> <li>・低炭素まちづくり法やエネルギーの自立に関する取組方向を具体的に書くべき</li> <li>&lt;各主体の役割&gt;</li> <li>・住民等、市町、県が何をするのかわかりにくい</li> </ul>
評価 指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価は必要</li> <li>・優れた取組の顕彰</li> <li>・県の自己評価とは別に市町や住民の評価を行う</li> <li>・施策を細かく評価するのではなく、頑張っている地域を顕彰、発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優れた取組の評価</li> <li>・県民にわかりやすい指標の設定</li> <li>・行政目標とは別に、アウトカム指標とすべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優れた取組の評価</li> <li>・県民にわかりやすい指標の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来像の次に、代表的な指標を入れて、最後にまちづくりの取組方向のマトリックスがある方がよい</li> <li>・民間や市町がやることも評価できれば</li> <li>&lt;例&gt;・ストックに関するもの</li> <li>・省エネや防災性のある建物の割合</li> <li>・空き家率、3 世代同居率の割合</li> <li>・民間投資や地域の雇用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指標はプロジェクトの進行管理ではなく、各地域の進む方向を県民に示すもの</li> <li>・全県的な代表指標を設けてはどうか</li> </ul>